
うたかた

戀雨姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うたかた

【Nコード】

N2012V

【作者名】

戀雨姫

【あらすじ】

パシヤンと水が跳ねる、音がした。

（前書き）

初短編。

伝えたいことは何もない。唯、書きたいように書いただけ。

一回読み返しただけで推敲も何もしていない、ホントウトウに思いつきで書いた物。

なので深く考えずに読んでいただけるとありがたいです。

では。

「魔女にね、お願いしたの。——もう一度、泳ぎたいって」

パシャンと水が跳ねる音がして、顔を上げた。見れば、水槽の中でリウが宙返りをしていた。くるくる、くるくると回る度に紅紫の鱗が陽光を反射してキラキラと光る。

ちょうど仕事も一段落ついたので、天鵝絨張りの椅子から立ち上がり、水槽に近づく。

「暇なのか？ リウ」

声を掛けても、答えがないことは分かっている。それでも、理知的な光を宿す漆黒の瞳を見つめていると、話しかけずにはいられない。

リウはもう一度宙返りをする、身体を半回転させて俺を見つめてきた。そうして見つめられると、黒曜石の様な、星の瞬く夜空の様な、神秘的な瞳に吸い込まれそうになる。俺は視線を外すと軽く頭を振って、水槽の中に手を延ばした。無論、リウに触れる為に。しかしリウはビクリと身を震わせると、水槽に張った水の様にするすると俺の指の間をすり抜けて、俺の手が届かない水槽の底に落ち着いてしまった。そのくせ、漆黒の瞳は俺から逸らされることはない。

—— 嗚呼、イライラする

苛立ちに任せて水槽の縁に手を掛ければ、俺が何をする気が察したのか漆黒の瞳に恐怖が宿る。それを見て何時も俺は我に返るのだ。すいそつをひっくりかえせば陸に上がれば、リウは死んでしまう、と。

「ごめん」

苦笑して、水槽の縁を撫でて、執務机に戻る。背中に突き刺さる、リウの視線をひしひしと感じながら――。

？

パシャンと水が跳ねる音がして、目が覚めた。カーテンの隙間から覗く欠けた月は、やや西に傾いている。もう、東の空は白み始めているだろう。

「りう……？」

昼間の様に、また水槽の中で宙返りでもしているのかとそちらを見れば、そこはもぬけの殻だった。

「リッ――！」

飛び起きると、喉に固く冷たい感触が当たって、口を嚙む。月光に煌めく刃はきつと、俺の首に赤い筋を残しただろう。短剣を握る華奢な白い指が離れれば、重力に従って音も立てずに掛け布団の上に落ちた。

それに気を取られていると、再びパシャンと水が跳ねる音がした。

ハツと水槽を見れば、リウは変わらずその中に居る。きつと、影に隠れて見えなかったのだろつと安堵して、俺は睡魔に任せて目を閉じた。……俺をじつと見つめる漆黒の瞳が、くゆりと揺れたのは気のせいだろう。

？

パシャンと水が跳ねる音がして、顔を上げた。見れば、リウは水面すれすれの所まで浮かび上がって、じつと俺を見つめていた。

「如何した……？」

心配になつて水槽を覗き込むと、飛沫を上げて水面に顔を出したリウの唇が、俺のそれに触れた。今の今まで水の中に居たのに、僅かに温もりのあるそれは一瞬後には離れて、俺の耳元に寄せられた。初めて聞くリウの声は澄んでいて、耳に心地よく響いた。だけど。

「ごめんなさい」

その声に聞き惚れるには、リウが初めて発した言葉は衝撃的すぎて。

「何を……」

茫然と、水の中に居たせいか潤む漆黒の瞳を見つめた。滑らかな頬を、絶え間なく水槽の水が滑り落ちる。——そう、水槽の水だ。涙なんかじゃ、

「好き、だったの」

涙なんかじゃ、ない、筈なのに。

何故、笑みの形に細められたその瞳から、雫が零れ落ちる——？

「リ、……」

パシャンと水が跳ねる音がして、顔を下げた。リウの濡れた頬に触れようとしていた手は、行き場を失くして宙を彷徨う。

水面に浮かぶ、無数の白い泡。何時か、浜辺でリウを見つけた時に打ち寄せていた波頭も、こんな風に白く泡立っていた。その泡は、波が引いたあと少しの間砂の上に残って、弾けて、消えた——。

「リウ……？」

茫然と、リウの名を紡ぐ間にも、小さな音を立てて泡は弾けて。

「リウ……！」

我に返った時には、リウの黒髪に良く似合うと、俺が贈った血の様に赤いアネモネと、僅かに血の付いた鈍く光る短剣だけが、水槽の底に沈んでいた——。

人魚姫はもう、何処にもいない――。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2012v/>

うたかた

2011年10月9日23時27分発行